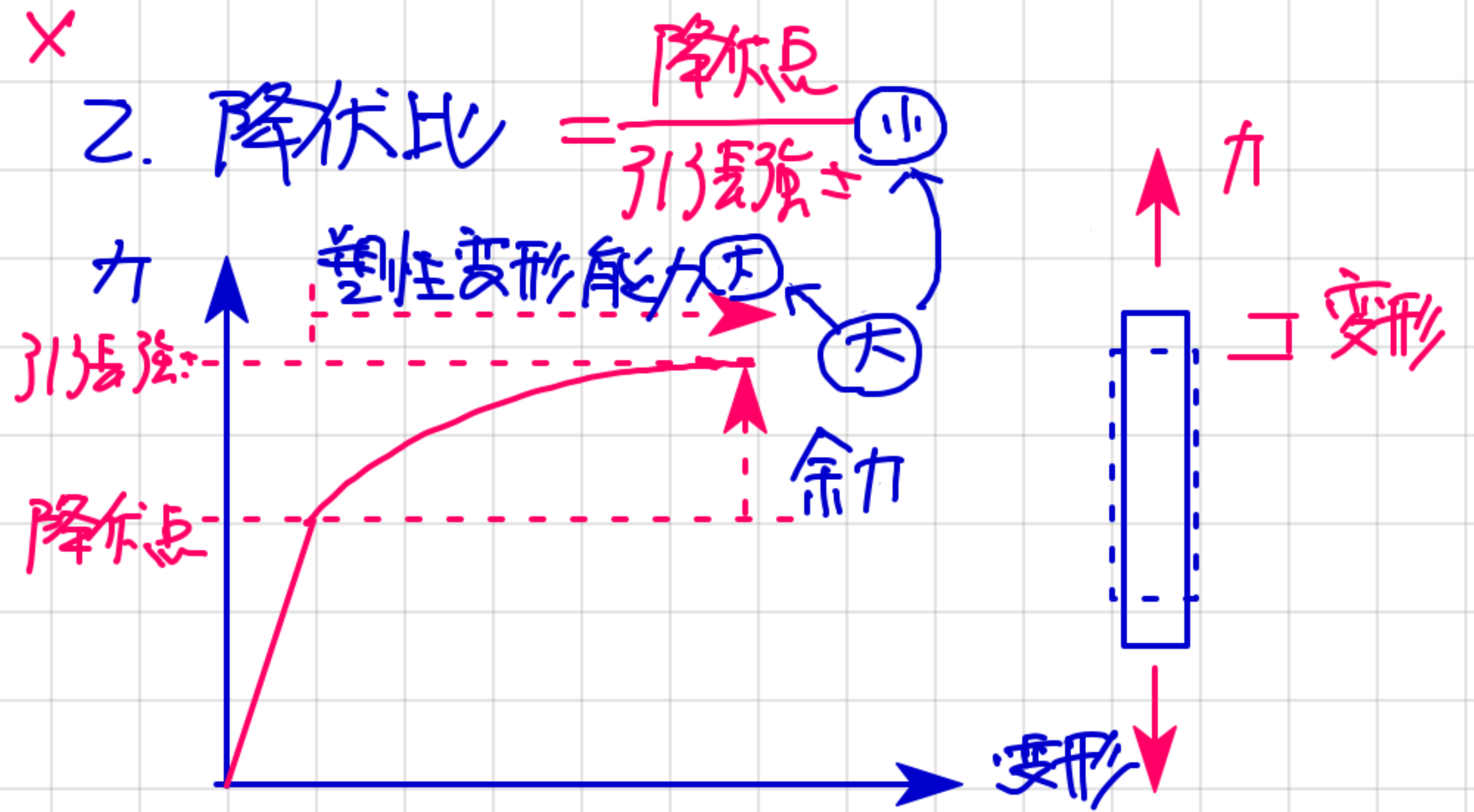
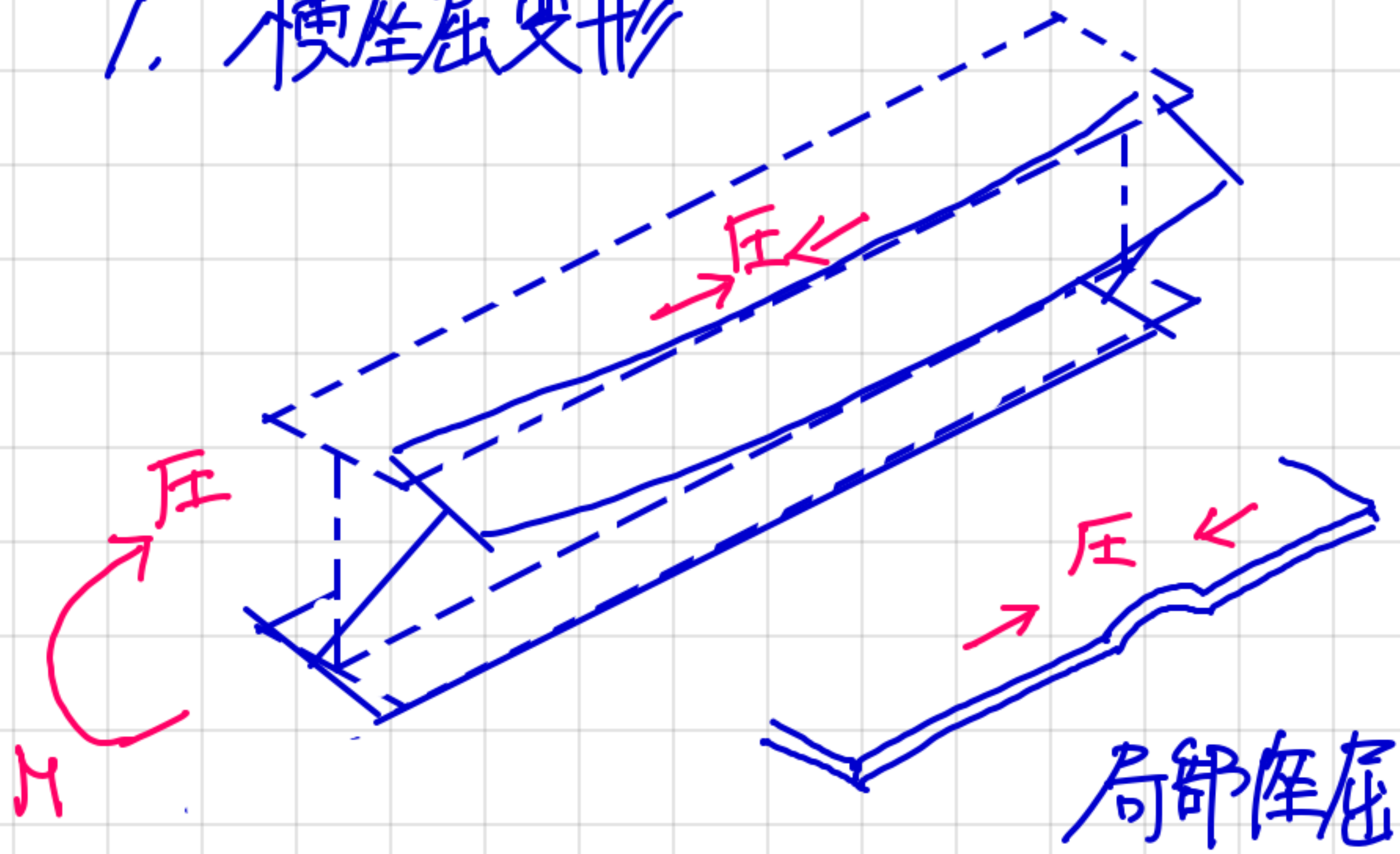
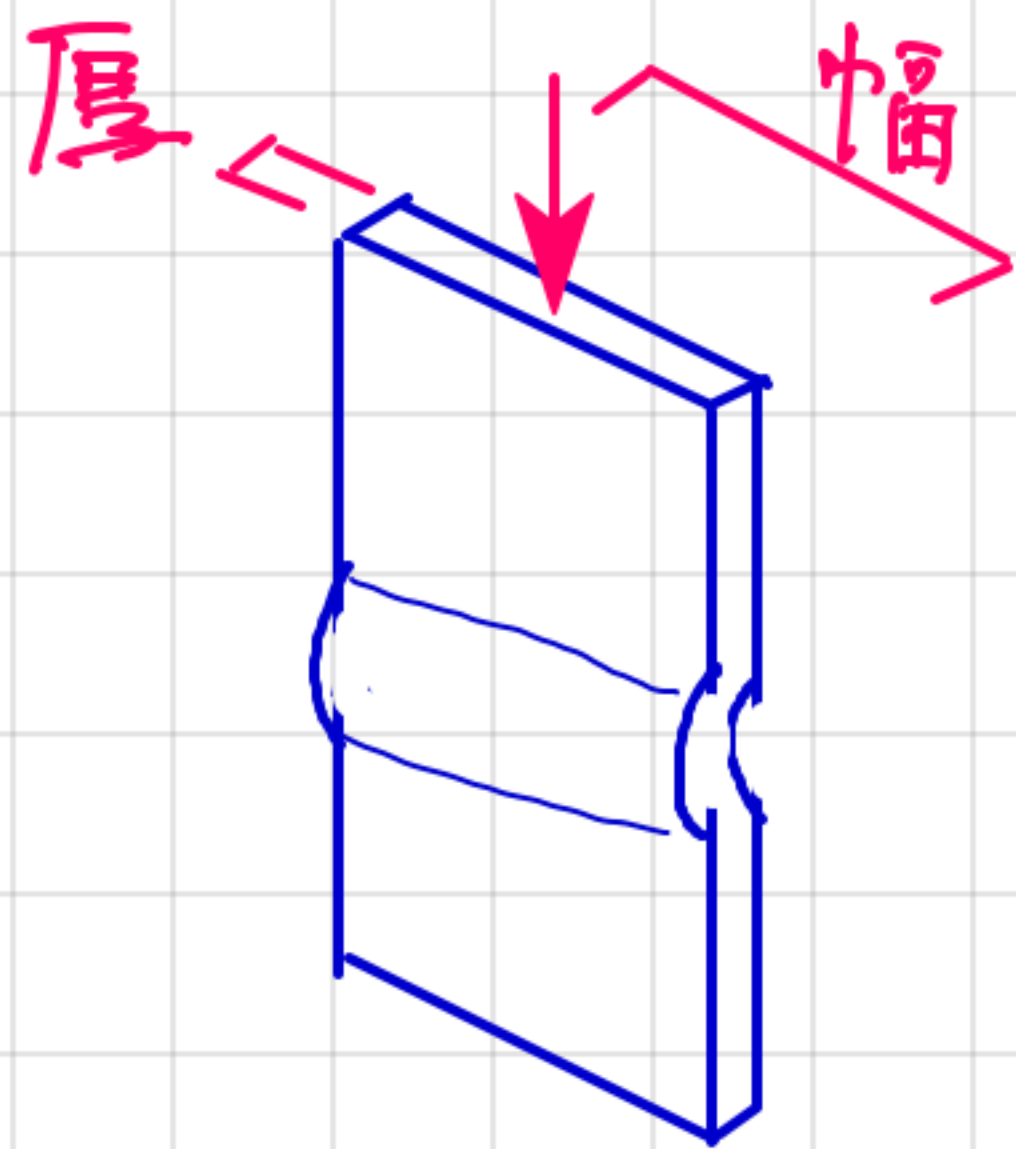


NO 15 鉄骨構造

1. 横座屈変形



3. 幅厚比 = $\frac{\text{幅}}{\text{厚}}$ (大)



局部座屈(也可)

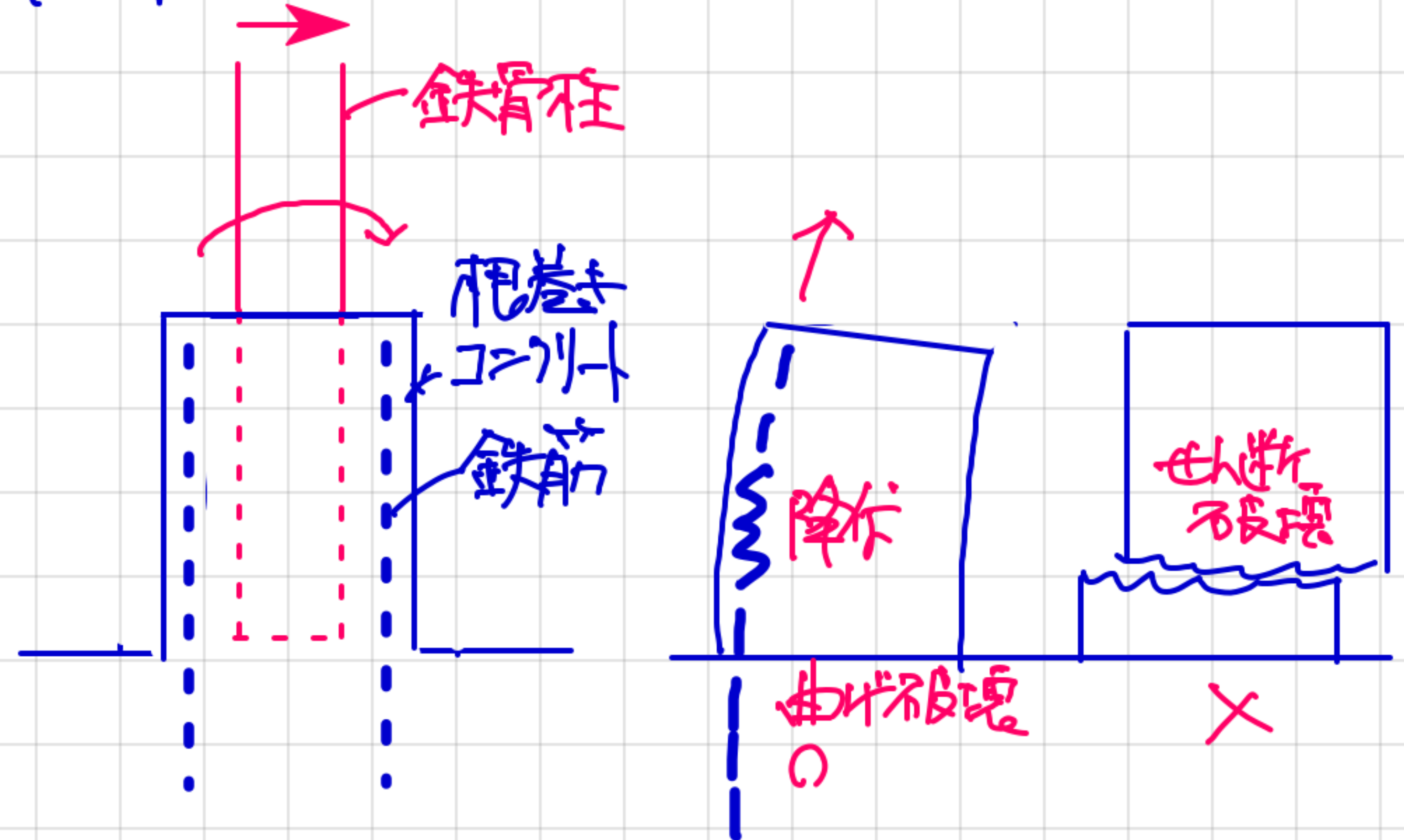
柱: 圧縮力を受ける

↓
局部座屈(也可)

↓
幅厚比上限値

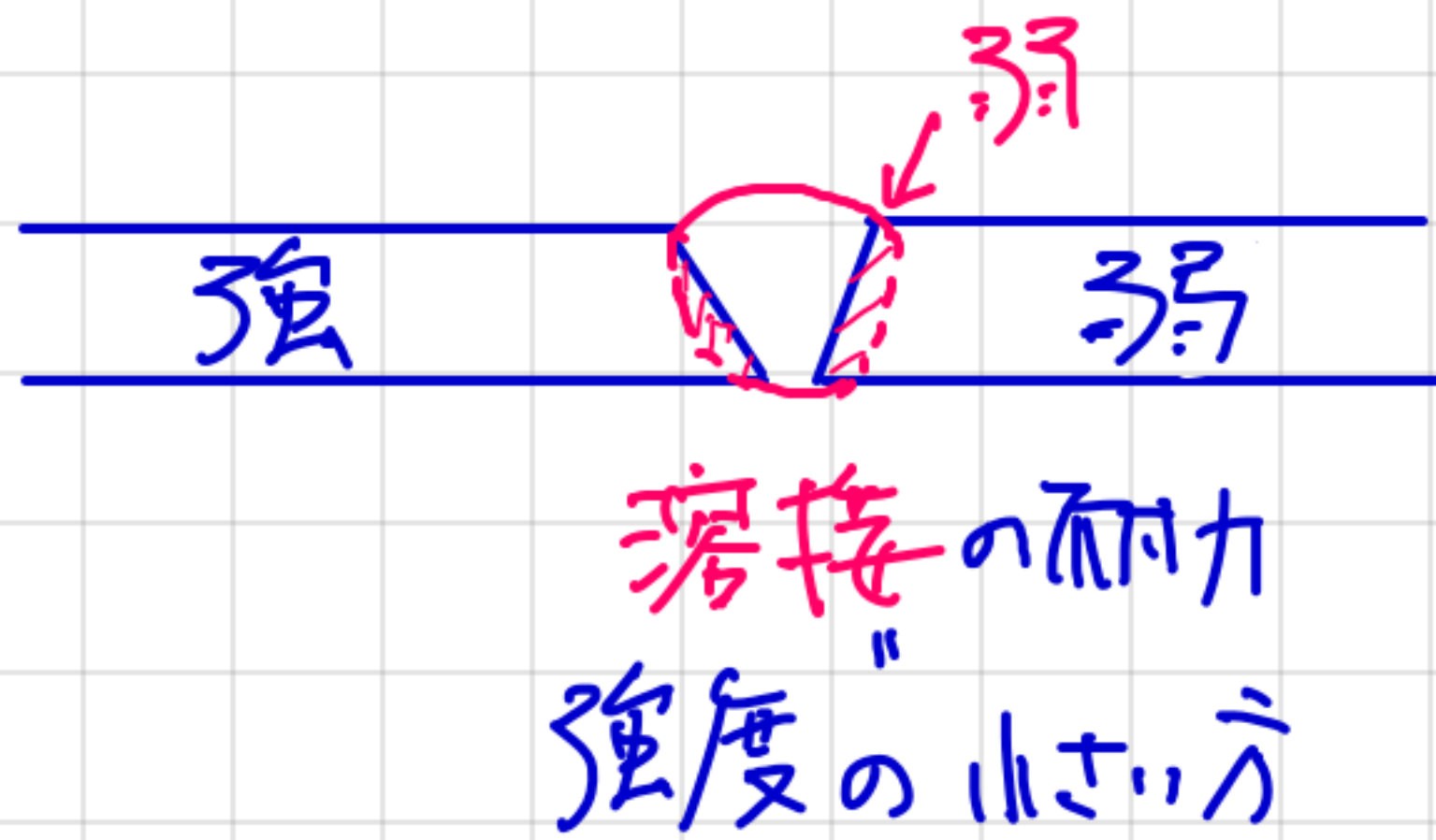
小さくする必要があります

4. 根差き柱脚

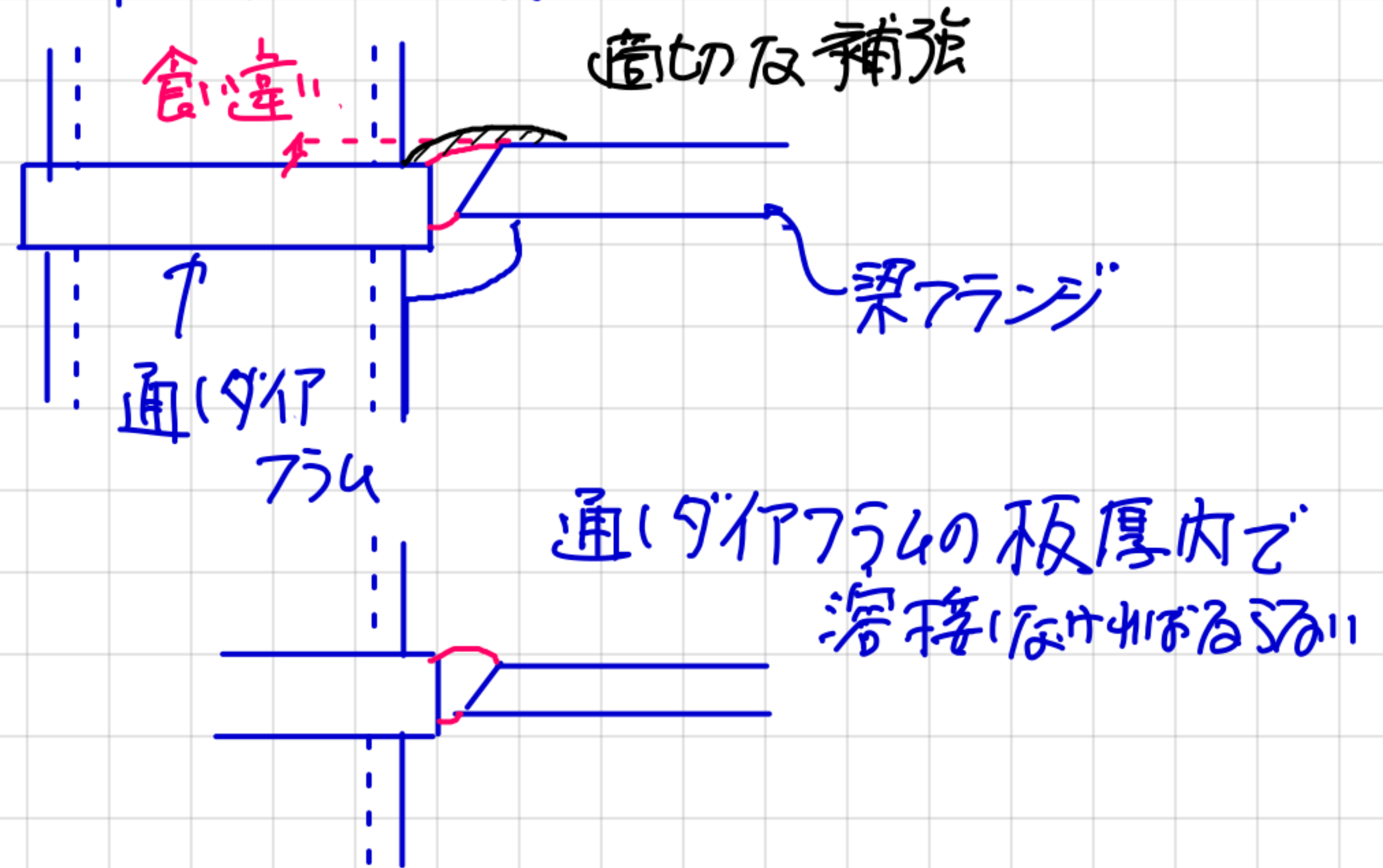


No16 接合部

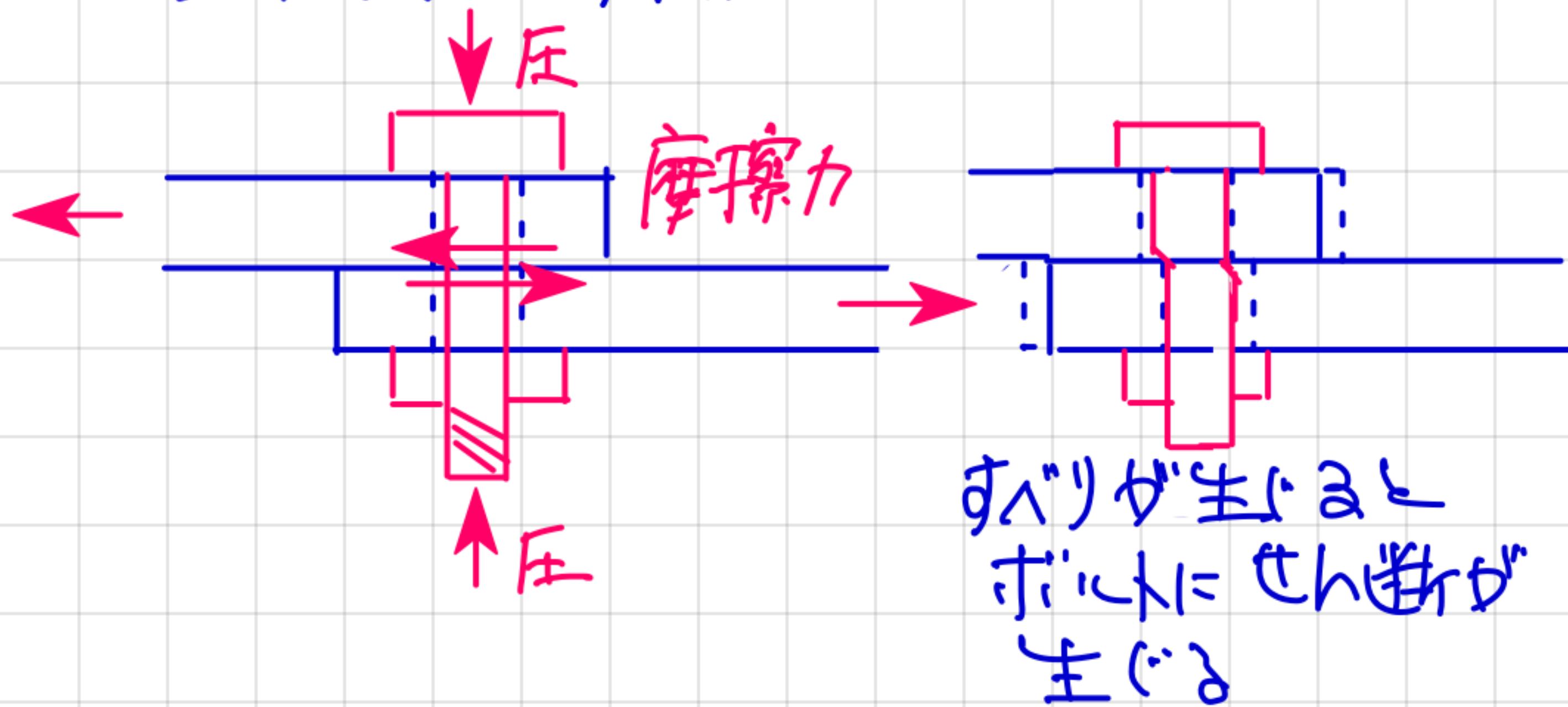
1. 強度の異なる鋼材



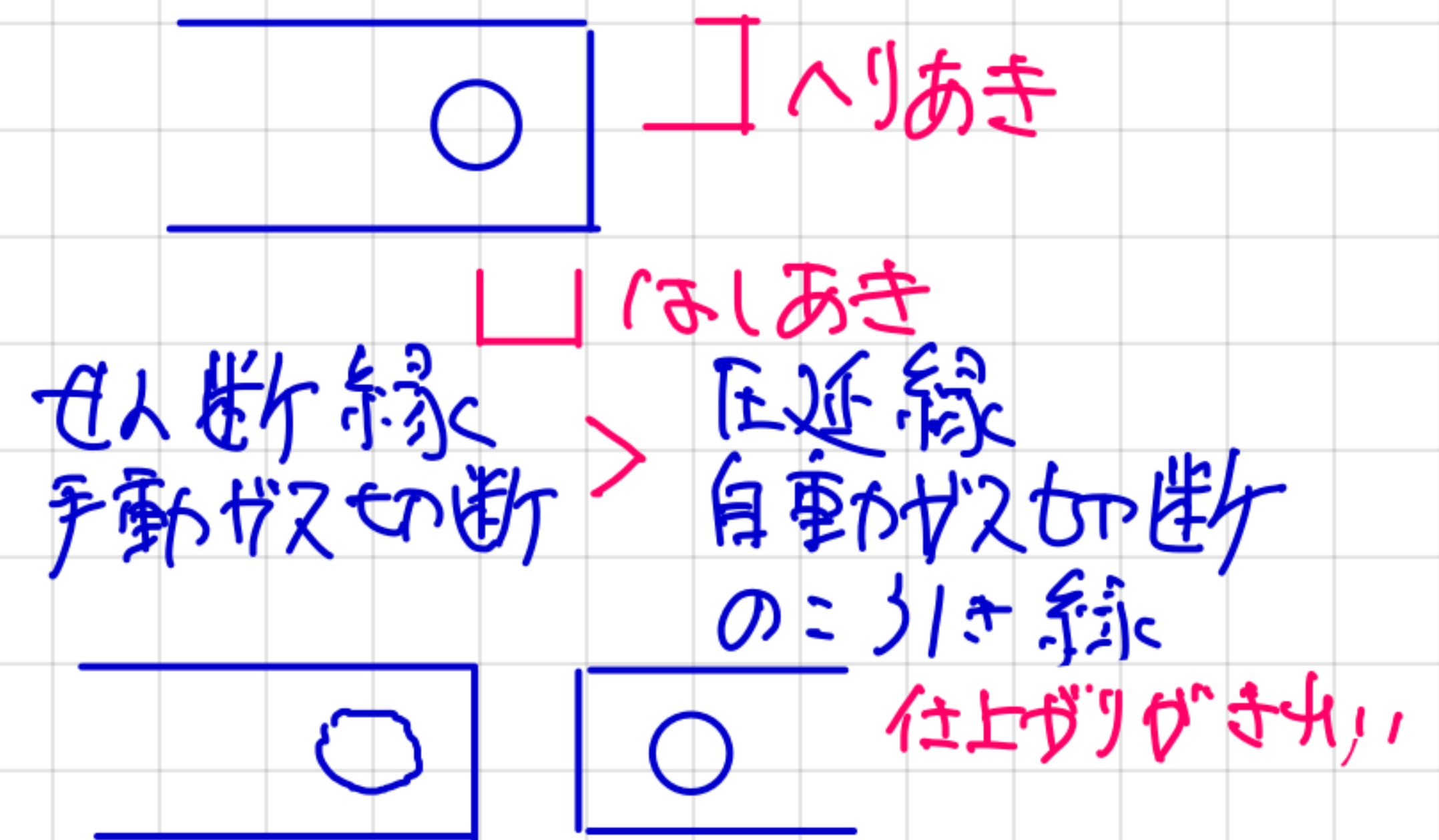
2. 許容値を越える食いだ



3. 高ボルト摩擦接合



4. 最小縁端距離



No17 耐震計算ルート

1. ルート1-1 告示593号-号イ
 (1) 柱の相互の間隔 6m以下

法20条三号に該当する条件

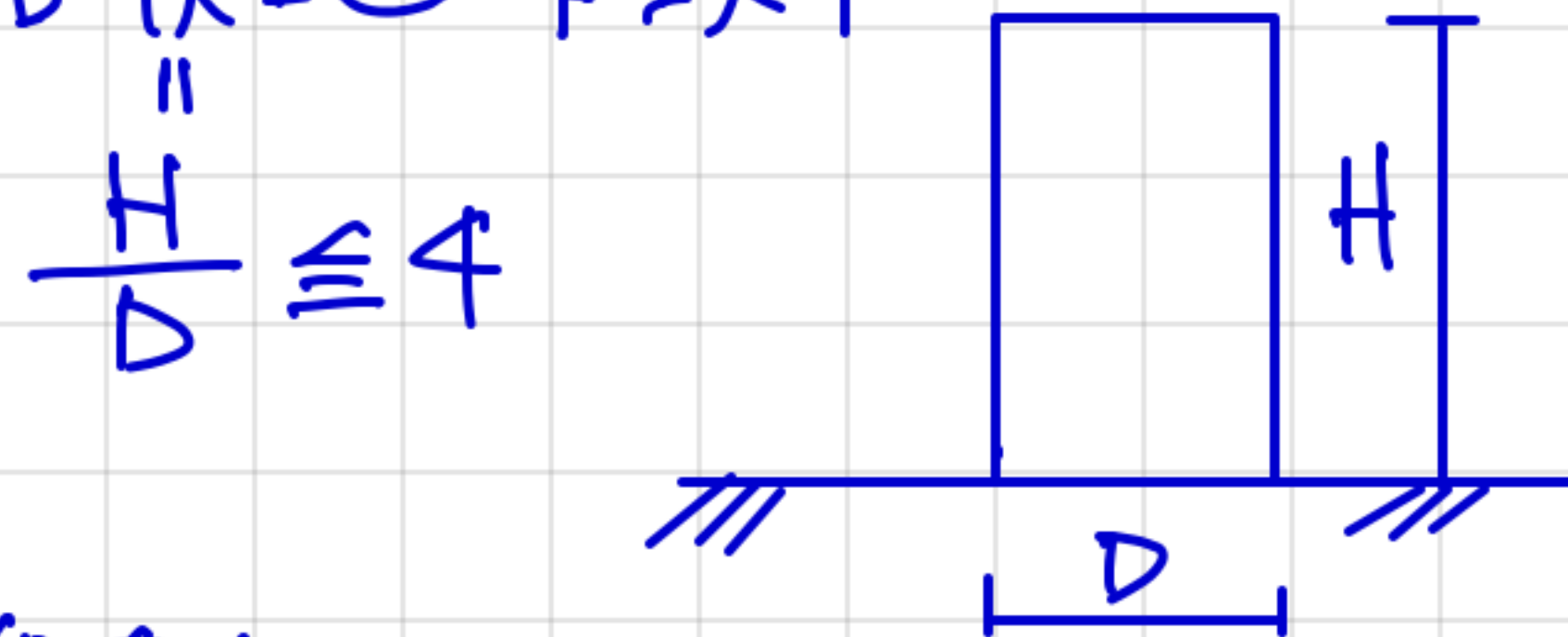
↓
 合81条3項の構造計算(行石)

X
 2. ルート1-2 告示593号-号ロ
 (4) 標準せん断力係数 0.3
 (5) 合82条の6ニ号ロ (偏心率 ≤ 0.15)

↓
合82条各号+合82条の4
 (許容応力度計算)
 (イ-ジ) 3つある構造計算のうち最も簡単
 ルート1-1, 1-2

3. ルート2
 告示1191号第2項
 塔状比 4以下

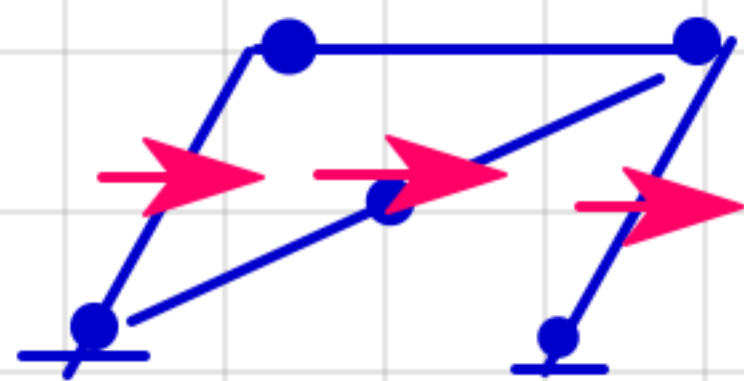
合81条2項ニ号の構造計算



↓
 許容応力度等計算 合82条の6
 三号 → 告示1191号
 (イ-ジ) 3つある構造計算のうち中位のレベル
 ルート2

△
 4. ルート3 保有水平耐力
 ↓ 告示594号第4項-号

合81条2項-号の構造計算

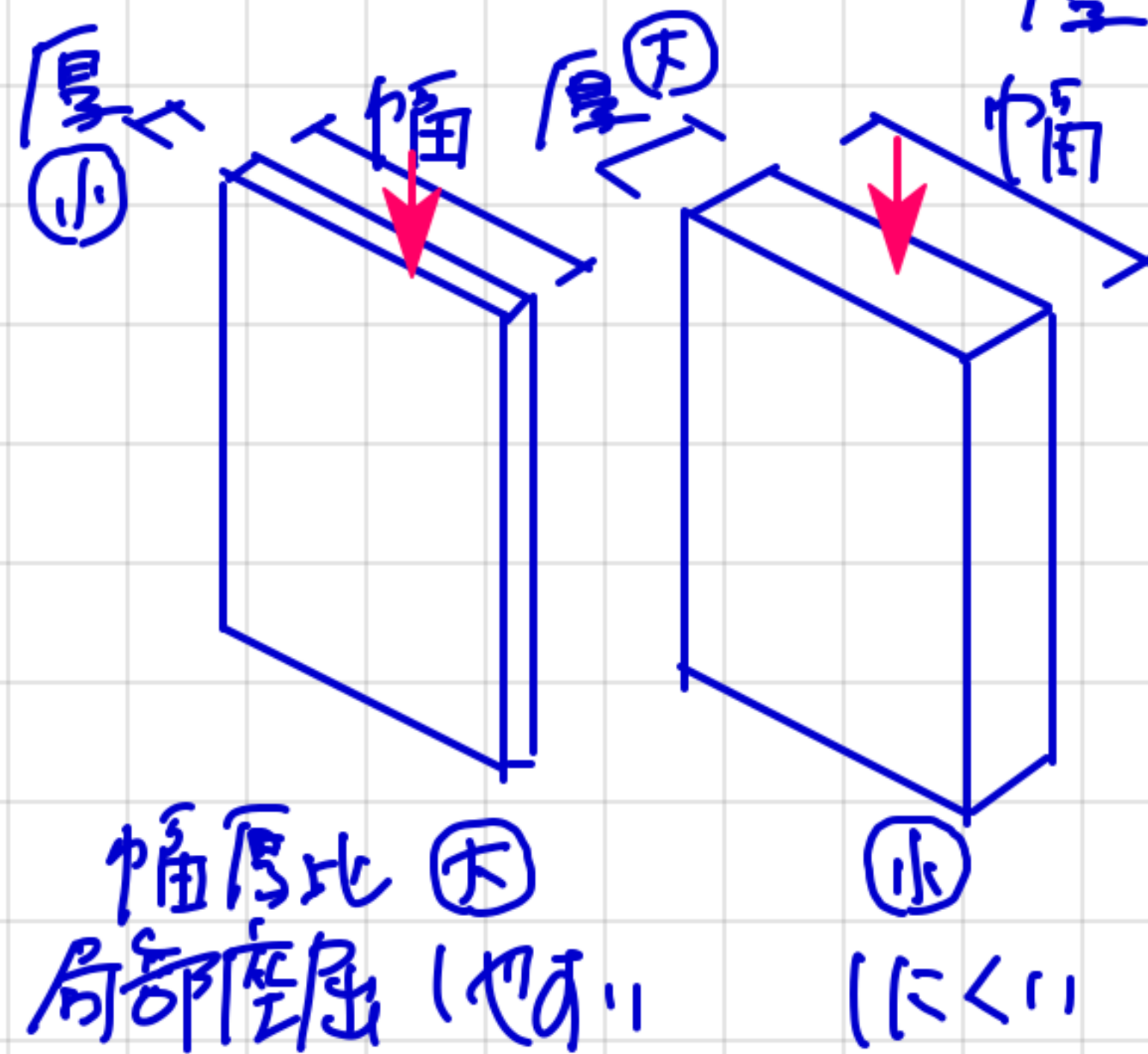


崩壊形に達する時は構造耐力
 上主要な部分に生じる力の和
 ≠ 柱、筋の水平せん断耐力の和
 ?

↓
 保有水平耐力計算 合82条の3
 -号 → 告示594号
 (イ-ジ) 3つあるうちの最も難しい計算
 ルート3

№18 鉄骨構造の設計

× 1. 幅厚比 = $\frac{\text{幅}}{\text{厚}}$



基準強度 (大)

↓
大きな力が作用する

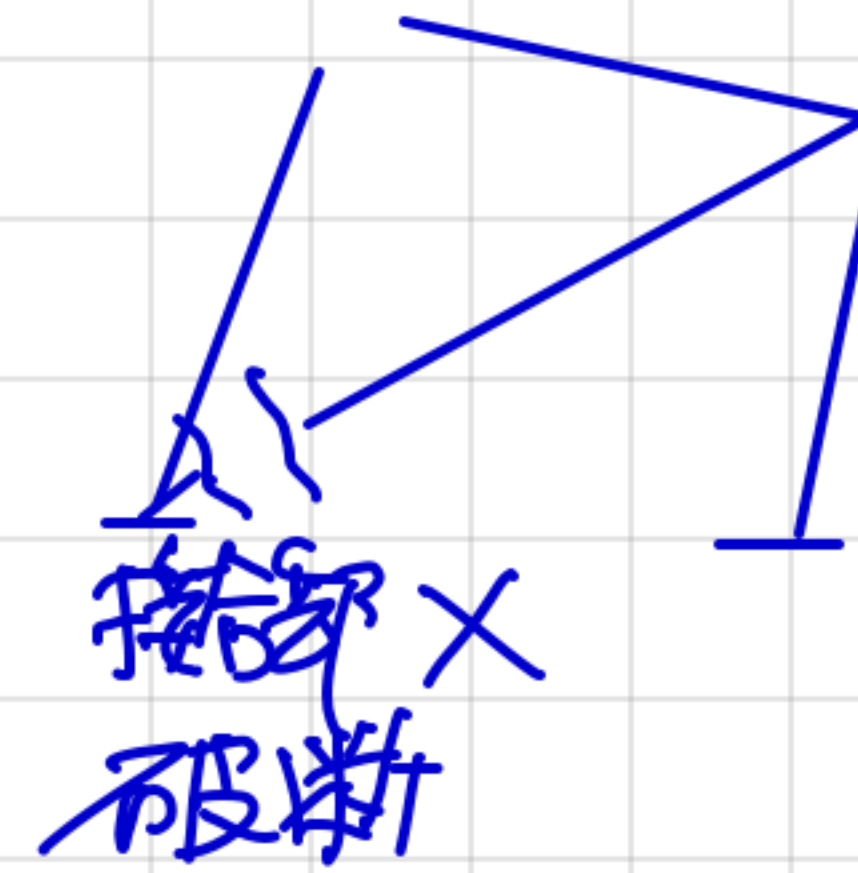
↓
局部座屈しやくなる

↓
幅厚比小さくなる

↓
上限値 (小)

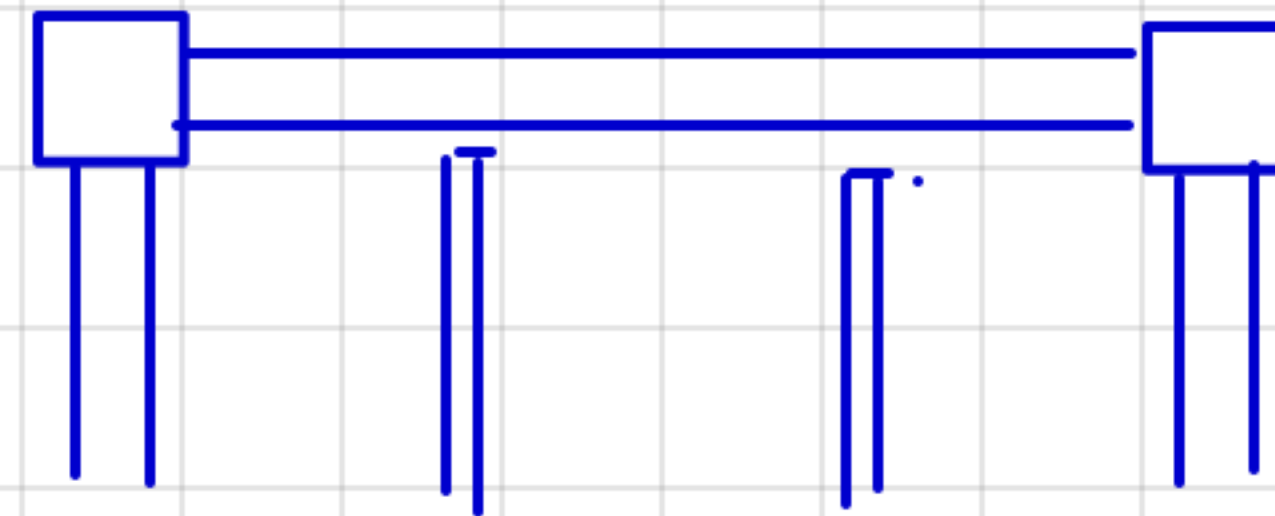
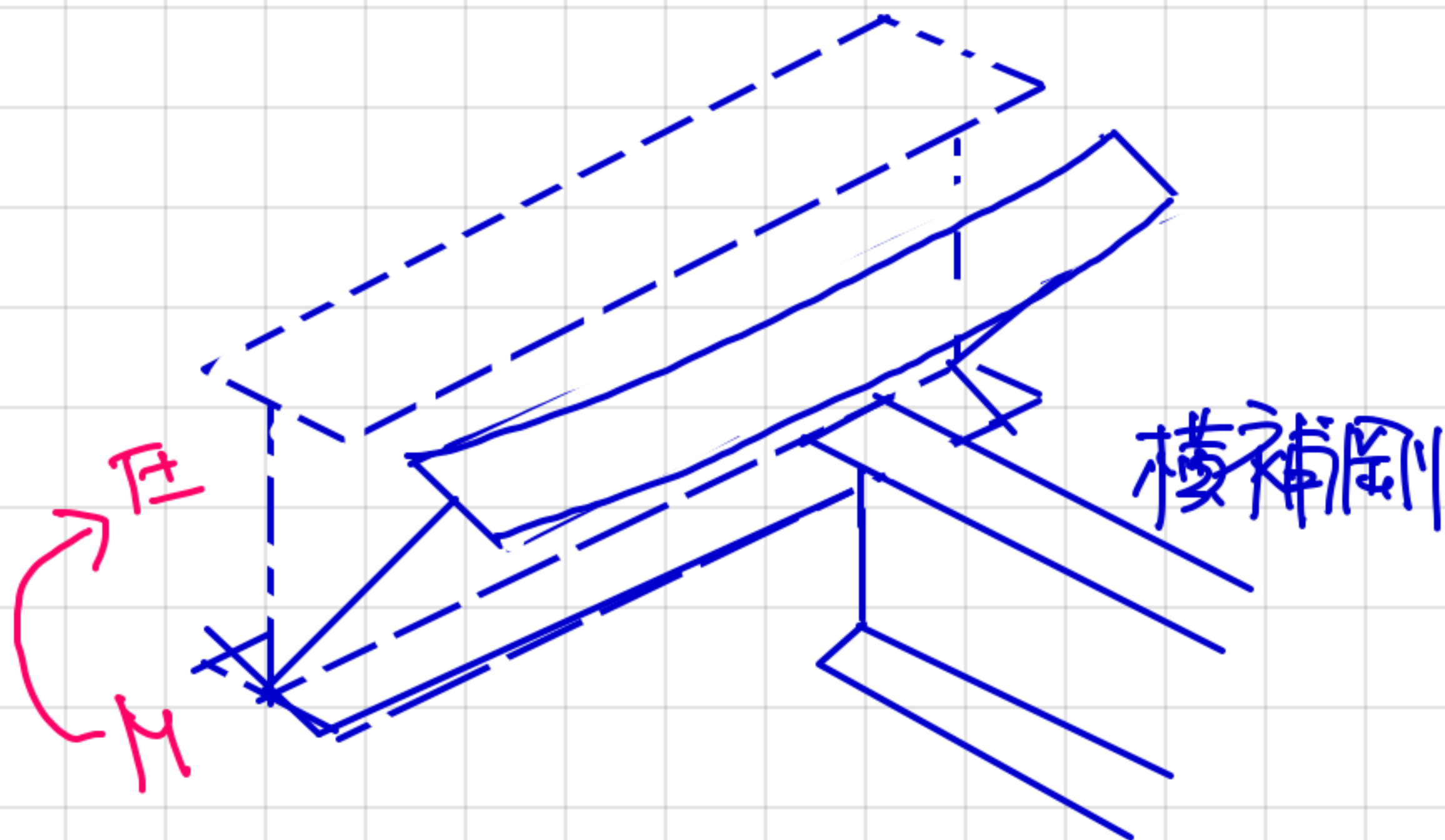
2. 保有耐力接合

部材が保有している耐力がたが分發揮させるまじり破断は... 接合

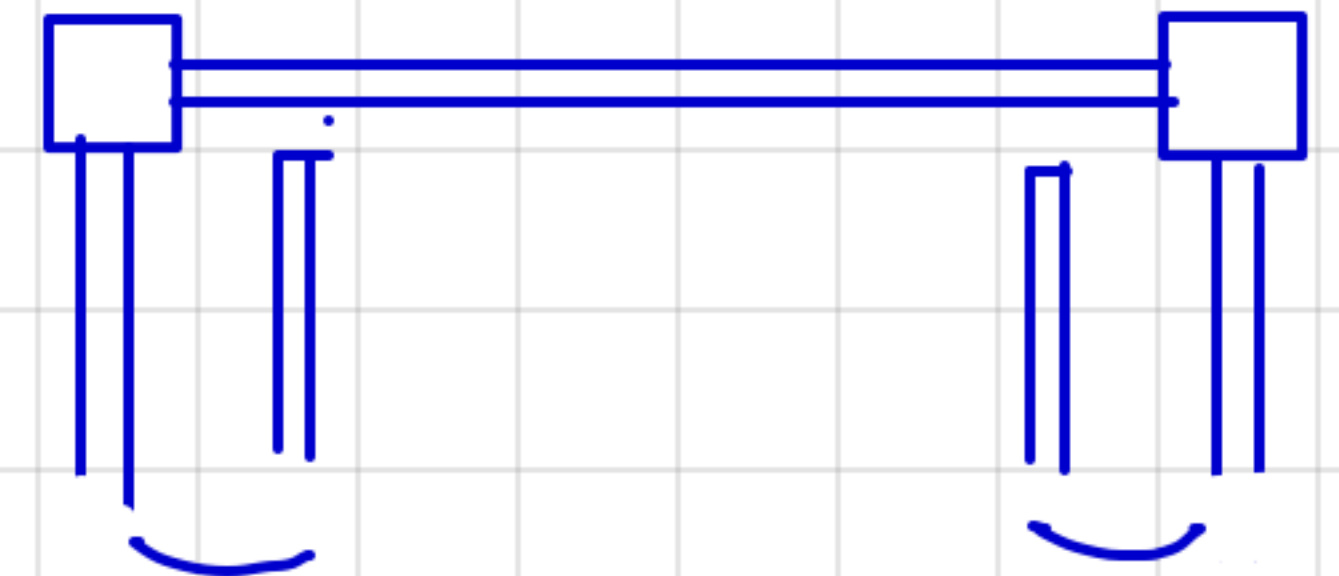


母材 < 接合部

3. 保有耐力横補剛



均等間隔に設ける



梁端部に近・高所に設ける

4. 引張強度以下の荷重でも繰返して負荷させると破断することがある